

# 石狩川上流におけるピクトグラムを用いた川の 標識への取り組み

## —川の標識の検討事例《自由課題》—

旭川開発建設部 旭川河川事務所 計画課 奥山 昌幸  
○矢萩 愛彦  
石狩川上流川づくり懇談会委員 石田 純枝

現在、河川に設置されている標識や案内板は、デザイン・色・素材・形に統一感がないことから景観上の問題があったり、経年変化による判読不明や適切な場所に設置されていない等の問題を抱えている。このため、「見やすさ」や「わかりやすさ」、「情報量の多さ」、「表示内容の適正」などを工夫した「ピクトグラム」（誰もが一目でわかるよう工夫された図記号）を用いた標識・案内板を検討し、河川空間における的確な案内・誘導の実現と景観を損なわない標識・案内板のあり方について検討を行っている。本報告では、石狩川上流におけるサイン計画検討の取り組みとともに今年度実施した立体等身大模型を用いた流域自治体及び市民アンケート調査について報告するものである。

キーワード：河川標識、ピクトグラム、地域活性化、地域連携

### 1. はじめに

石狩川上流は、神居古潭下流の神納橋より上流を指し、流域面積3,450km<sup>2</sup>、幹線流路延長119kmを有する流域である。石狩川は、その源を国立公園を抱える大雪山系に発し、その後、北海道第二の都市である旭川市を含む上川盆地へ入り、牛朱別川や忠別川等の支川を合わせ流下する。この間、層雲峡に代表される渓谷地帯、盆地に広がる水田地帯と旭川市市街地のほか、支川美瑛川では全国的に知られる美しい畑、牧草地の丘陵地帯を含め多様な景観が形成されている。

この石狩川上流域では、これまで堤防の整備をはじめ大雪ダム、忠別ダム、牛朱別川分水路等の整備がなされ、流域の発展に欠くことができない農業・発電等の用水の確保や、安定した河道での河川敷には旭川市市街地を中心にスポーツ・公園としての場の整備がすすみ、多くの人々にその恵みをもたらしている。

旭川開発建設部では、この石狩川が育んできた多様な生態系や優れた景観をより良好なものとして後生に継承するため、川づくりの観点でこの上流域での現状と将来有るべき姿について議論するための場として、平成15年6月、自治体等の関係機関の代表や学識経験者による「石狩川上流川づくり懇談会」を設置した。この懇談会は、平成16年度までに11回を開催し、「河畔林の連続性」、「河川生物の保全」、「フットパスの整備」、「施設やサインのデザイン」の4つをテーマに議論を行い、「基本方針・整備目標・当面の取り組み」の3段階

にとりまとめ、現在、これに基づく取り組みをすすめている。

本報告では、このうち「施設やサインのデザイン」の取り組みを対象とし、今年度実施したアンケート調査とその結果を踏まえた今後の取り組みについて報告する。

### 2. 石狩川上流におけるサインデザインの課題

石狩川上流域内で特に河川利用が盛んな旭川市市街地に位置する河川敷のサイン設置状況について平成19年度行った調査によると、忠別川合流点から秋月橋の約6km区間(左右岸及び牛朱別川合流部も一部含む)におけるサイン数は、412箇所であった。

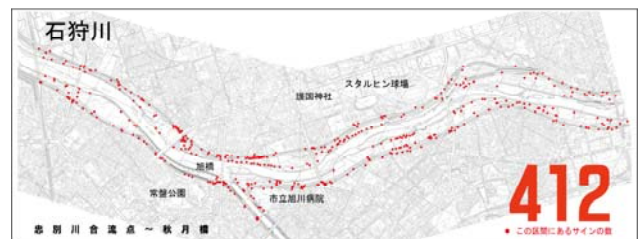


図-1 サイン設置箇所図

図-1は、設置箇所を調査した結果を平面図にプロットしたものであるが、サインは堤防天端上のほか、河岸部にも多く存在し、特に河川利用者の入り口となる橋梁からの進入口に集中しているものの、調査を行った約6kmの区間に満遍なく存在していることがわかる。

写真-1は、サインが集中している箇所の一例である。

歩行者・自転車・自動車、上下流の走行方向も意識した設置となっているため、それぞれに対応するサインが設置された結果、乱立の状態となっている。サイン設置者が複数であるため、共架による集約が図られず設置されたことも一因であると考えられる。



写真-1 サイン集中箇所の状況

このほか、石狩川上流域のサインのなかには、劣化により判読が不可能なもの（写真-2）や設置以降の状況の変化により不要となったもの（写真-3）が存在している。



写真-2 劣化により判読が不可能となったもの



写真-3 状況の変化により不要となったもの  
また、同じ内容のものであってもデザインの違いやデザインが過度に表現されているものもある（写真-4）。



写真-4 デザインの違いと過度な表現

これら、乱立や劣化・不要サインの放置、デザインの違い及び過度な表現は、情報としてまとまりを欠き、景観を損ねているだけでなく、利用者の混乱を招くこととなり、危険である。

### 3. 石狩川上流河川景観のルールづくり

このような課題を踏まえ、川づくり懇談会では、河川及び施設のすべてが流域の景観形成の一要素であることを認識し、景観やデザインの専門家の意見や関係機関の施設等との調整を図りながら、河川景観に関わるデザインの基本的なルールづくりを行うことを基本方針とし、  
①基本ルール「石狩川デザインのスタンダード」の策定  
②関係機関や専門家らとの連携により石狩川スタンダードを守り育てていく仕組みづくり  
③既設のサインや施設を点検・評価し、必要に応じて撤去・整理または、ルールに基づくデザインでの改築・改良を行うとする整備目標を立てた。現在、石狩川スタンダードづくりは、「石狩川上流サイン設置指針(案)」として検討をすすめており、その内容を以下に示す。

○指針の目的及びコンセプト

- (1)システム:あらゆる設置主体に対し統一的な考え方の提示し、サイン全体の秩序を生み利便性の向上を図る。
- (2)デザイン:特性に応じたあり方を提示し、美しい景観の形成を図る。
- (3)メンテナンス:整備・維持管理方法を提示し、今後の設置や更新における対応を図る。

○サインシステム

サインは、地名や施設名を表示する「定点」、周辺の施設への方向などを表示する「誘導」、現在地とその場所周辺の位置関係を表示する「案内」、歴史的 content 等の説明を行う「説明」、危険行為や迷惑行為の防止を促す「規制」の5つに分類し、さらに特性を踏まえ、自然観察等の場では「自然利用」、公園やグラウンド等の場合は「広場利用」、歩行者や自転車が利用する通路では「ネットワーク」とし、3つの利用タイプに分けるほか、サインの配置方法としては基点(定点及び案内サイン)、分岐・中間点(誘導サイン)、眺望点(説明サイン)、また、場に応じた規制サインにより効果的な提示を行うとともにサインの集約を図る(図-2)。



図-2 利用タイプ別サインの配置模式図

○サインデザイン

デザインは、誰もが判読可能で見やすいサインとすることを基本とし、定点や規制についてピクトグラムによる表現(図-3)とするほか、誘導、案内、説明のサインも含めその色彩(図-4)や書体(図-5)を設定し、統一的なデザインで景観の混乱を抑える。



図-3 ピクトグラムによる表示例 [左:サイクリングロード、中:危険箇所注意喚起(おぼれ危険)、右:ゴミ捨て禁止]



左図-4 色彩の設定



右図-5 書体の設定

○サインメンテナンス

設置するサインのメンテナンスは、設置主体で行い、新設・更新・撤去の際は、管理カルテ(図-6)を作成し、河川管理者に提出、河川管理者で指針に基づき内容確認を行うとともに必要に応じて協議・調整を行うことで、劣化したサインの更新や情報内容の更新を図る。

| サイン管理帳票 |          |     |        |          |          |         |      |       |      |
|---------|----------|-----|--------|----------|----------|---------|------|-------|------|
| 一般事項    |          |     | 管理情報   |          |          |         | 特記事項 |       |      |
| サイン名    | 設置者      | 氏名  | 連絡先    | 設置年月日    | 管理費      | 氏名      | 連絡先  | 撤去年月日 | 撤去理由 |
| 設置年月日   | 平成 年 月 日 | 管理費 | 氏名     | 連絡先      | 撤去年月日    | 撤去理由    | 氏名   | 連絡先   | 撤去理由 |
| 住所      | 施工業者     |     |        | 氏名       | 連絡先      | 設置場所    |      |       |      |
| 利用タイプ   | 設置場所     |     |        | 設置場所     |          |         |      |       |      |
| 写真      |          |     | 写真     |          |          | 方向      |      |       |      |
| 写真撮影日時  |          |     | 写真撮影日時 |          |          | 方向      |      |       |      |
| 撮影年月日   |          |     | 撮影年月日  |          |          | 方向      |      |       |      |
| サインの経緯  |          |     |        |          |          |         |      |       |      |
| 番号      | 方法       | 仕様  | 機能区分   | 設置年月日    | 撤去年月日    | 経緯・経緯区分 | 内容   |       |      |
| 1       |          |     |        | 平成 年 月 日 | 平成 年 月 日 |         |      |       |      |
| 2       |          |     |        | 平成 年 月 日 | 平成 年 月 日 |         |      |       |      |
| 3       |          |     |        | 平成 年 月 日 | 平成 年 月 日 |         |      |       |      |
| 4       |          |     |        | 平成 年 月 日 | 平成 年 月 日 |         |      |       |      |
| 5       |          |     |        | 平成 年 月 日 | 平成 年 月 日 |         |      |       |      |
| 6       |          |     |        | 平成 年 月 日 | 平成 年 月 日 |         |      |       |      |

図-6 管理カルテのイメージ

4. 平成23年度アンケート調査

指針(案)の検討にあたり、指針の適用対象である上流域の自治体の意見や一般の河川利用者の意見を広く集め、反映させるため、指針(案)に基づくサインの実寸大模型をつくり、利用者の多い旭川市旭橋下流左岸リベライン

パーク付近に設置し、アンケート調査を行った。調査は、9月22日(木)に流域自治体を対象にアンケート調査と意見交換会を合わせて実施し、翌日の23日(金・祝日)には一般の河川利用者を対象にしたアンケートを行った。

(1) 流域自治体へのアンケート及び意見交換

流域自治体へは、サイン関係の担当者に参加を依頼し実施した。アンケートは、サインデザインや設置位置の妥当性等について自由に意見を記載するものとし、28名の参加を得た。以下に実寸大模型の一例とそのサインに対する意見を抜粋する。



図-7 案内サインの例とアンケート意見

意見

- ・(案内板記載の)ポイント毎にキロ表示があった方が良いでしょう。
- ・(案内板の)上を北にするのではなく、設置位置により地図を回転させた方が見やすいのでは。
- ・高さは見やすいが、見た目には地味で目をひかない。

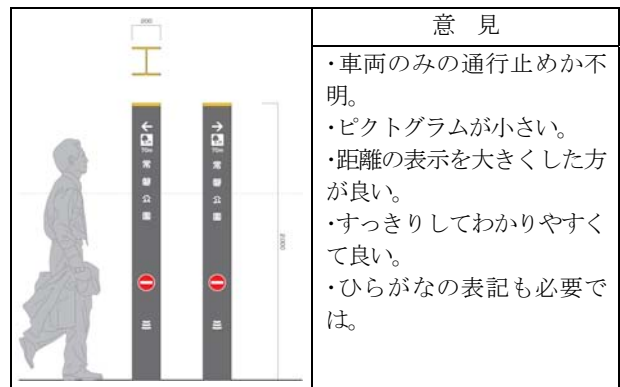


図-8 誘導・規制サインの例と意見

意見

- ・車両のみの通行止めか不明。
- ・ピクトグラムが小さい。
- ・距離の表示を大きくした方が良いでしょう。
- ・すっきりしてわかりやすくして良いでしょう。
- ・ひらがなの表記も必要では。

また、意見交換会においては、「現状のサインは、意味のわからないものも多い。景観上、デザインの統一は必要」、「サインの意味を周知させる方法の検討も必要」とする意見や、「サインの検討は、河川管理者、流域自治体との連携・調整が必要であるため検討チームの組織化をすべき」、「我々(自治体)のつくるツールなどにも連動させたい」とする意見があり、流域自治体との現況サインへの問題意識や景観に対する関心の高さ、指針の運用・展開に向けた取り組みへの期待を感じる結果であった。

(2) 一般河川利用者へのアンケート

一般の河川利用者には、事前に当部ホームページでの調査協力案内を行った上で実施した。アンケートは、準備質問に対する番号の選択にて回答とする方法にて実施(写真-5)し、201名の方から回答を得た。以下にその一部

を抜粋し示す。



写真5 河川利用者へのアンケート実施状況

〈問1〉

川の景観をそこなわないために、標識・案内板のルールをつくり、デザインの統一をはかる検討を進めています。この取組みについて、どう思いますか(あてはまる番号1つに○)。

- 1) 関心があり積極的に進めるべき 2) やるのはよいがあまり興味はない  
3) よい取組みとは思わない 4) 現状に満足しているので必要ない

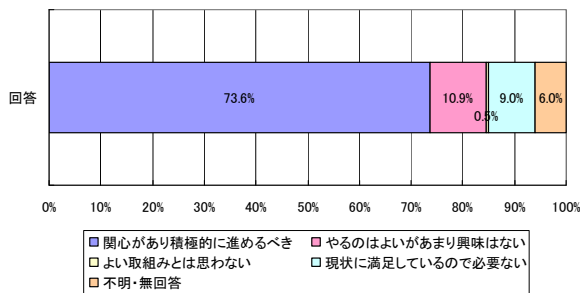


図-9 取組みに対する回答

〈問2〉

ジョギングやサイクリングでの利用者を対象とした誘導と距離表示を考えています。デザインの見やすさ、わかりやすさはどうですか(あてはまる番号1つに○)  
※現在から今回提案のデザインへの変り方は、説明パネル1をみるとわかります



- 1) とても見やすくわかりやすいので、このデザインをひろめてほしい  
2) 取組みはよいが、デザインはもっと考えるべき  
3) 現在のままでよいので、変える必要はない  
4) 何もたてないほうがよい

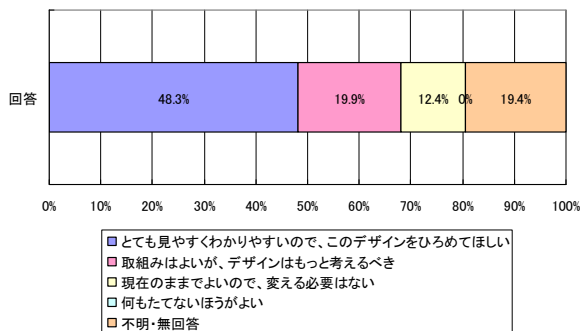


図-10 サインのデザインに対する回答

問1のサインの統一に対する取組み(図-9)については、「関心があり積極的に進めるべき」とする回答が73.6%であり、多くの方の理解を得る取組みであることが確認

できた。問2のデザインに対する回答(図-10)では、「とても見やすくわかりやすいので、このデザインをひろめてほしい」が48.3%、「取組みはよいが、デザインはもっと考えるべき」が19.9%であった。回答者の多数がとても見やすくわかりやすいとした一方で、もっと考えるべきとする意見もあり、さらに多くの理解を得るための検討が必要であることがわかった。

### (3) アンケート調査等のまとめ

今回のアンケート調査等を行った結果、流域自治体、一般利用者ともに多数がその取組みについて進めるべきとした意見であったが、サインのデザインについては、より見やすくわかりやすいものにしていく検討をすすめる必要があり、表現・表示の検討や利用者に対してサインの周知方法についての検討も行っていくとともに、自治体からも意見や協力をいただきながら進めていくことが必要であることがわかった。

## 5. 今後の取組みについて

今回実施したアンケート調査等の結果を踏まえ、石狩川のデザインのスタンダード策定に向けて、今後行っていくべき取組みとして、以下の3点が挙げられる。

### (1) 流域自治体との意見交換

指針(案)に盛り込むべきサインについて、サイン設置者である流域自治体からの意見を確認するとともに、河川区域外での指針適用についても可能性があることから、このことについての意見も確認し、指針(案)の検討をすすめる。また、既設サインの整理(存置・撤去・移設・共架)についても台帳の整備を図り、協議等の準備を進める。

### (2) 指針(案)の検討

アンケート結果の精査を行い、サイン設置指針(案)へ反映させる。

### (3) 指針(案)の周知方法検討

指針(案)の運用にあたり、河川利用者に対し、どのようにサイン(ルール)の内容を伝えるかについて、占用户(主に流域自治体)と協議する。

(1)から(3)の点については、石狩川上流川づくり懇談会での意見等も踏まえ、進めていくこととなるが、今後さらに流域自治体との連携のもと、より良い景観形成について取り組んで参りたい。